

1) 住民の防災意識向上

◎住民一人ひとりの防災意識の啓発を進めていく。

- ① 『港防災だより』(号外号)を発行し、避難訓練の成果と課題を住民が共有する。
- ② いきいきサロンを活用した身近な防災啓発を行う。
 - ・港地区いきいきサロン 災害時の食事・高齢者の避難所生活について考える。
 - ・笑話ホネホネクラブ 要援護者にならないための体づくりと共に災害時の対応について考える。
- ③ 各町組長会議を利用した防災啓発事業を開催する。
 - ・防災勉強会を開催する。
(DIG・HUG・タウンウォッチング・クロスロード・防災すごろく・炊き出し訓練)
- ④ 四日市市や中部地区開催の防災啓発事業を利用し、意識向上をはかる。
 - ・防災大学等講座受講
 - ・防災講演会への積極的な参加 平成27年2月21日(土)講師 あんどうりす氏
 ☆中部地区地域社会づくり協議会や中部地区市民センターを利用した防災事業への積極的な企画立案

2) 住民の避難を支援する共助の充実

◎港地区における津波避難に関する共助のあり方の検討・港地区自主防災組織連絡協議会の組織整備や各町の自治会長・自主防災隊長の仕事の見える化をおこないより実践的な訓練をめざします。

- ① 港地区自主防災組織連絡協議会の組織整備
 - ・マニュアル改訂をすすめ、組織の見直しを行い、自治会長・自主防災隊・リーダー等を役割の明確化し周知をはかる。
 - ・各町への防災啓発事業の支援
- ② 住民の安否確認方法の具体的な検討と確立、住民への周知方法を検討していく。
 - ・避難者名簿の取り扱い
 - ・住民名簿の活用等
 - ・声掛けルールの検討。
- ③ 要援護者対策を考えていく。
 - ・要援護者カードの整備
 - ・要援護者への支援方法
 - ・避難方法の検討
- ④ より実践的な訓練に近づけるための意識啓発
 - ・各町単位での災害時の安否確認
 - ・避難経路の確認等災害対策の見直しを行う。
- ⑤ 住民同士のコミュニケーションづくりへの支援
 - ・防災イベントだけでなく既存のイベントへの積極的な参加への呼びかけを行うと共に、新たな地域住民の集う場を、港地区自主防・自治会・社協と拡大し協働していく。

例えば 住民だれでもが集うサロンの開催

《防災委員》(敬称略・五十音順)

飯田 剛生	家城 宏光	石田 茂明	伊藤 範幸	大橋 隆	奥村 吉孝	大田 隆則	笠井 得生
加藤 亘	川崎 光俊	小崎 重夫	佐藤 敏	清水 泰次	鈴木 完一	寺井 勝	豊田 成彦
長谷川 正司	長谷川 雄俊	羽多野 隆	藤村 まさみ	松島 英男	松田 裕文	三島 誠	宮崎 裕之
山内 達生	山田 鑛明	吉田 正紀	山田 正幸				

《防災連携企業》(五十音順)

石井燃商(株)	伊勢湾倉庫(株)	㈱エネックス	おのえ作業所	風薫会	協同海運(株)	九鬼産業(株)
九鬼肥料工業(株)	コスモ石油(株)	佐藤クリニック	三エスゴム(株)	JSR(株)	昭和電工ガスプロダクツ(株)	
住友電装(株)	第一工業製薬(株)	大成建設(株)	大宗建設(株)	太平洋セメント(株)	高砂建設(株)	
中部海運(株)	中部電力(株)四日市火力発電所	中日本建設(株)	東ソー(株)	東邦ガス(株)	東陽興業(株)	
日本板硝子(株)	日本海事検定協会	日本カニゼン(株)	日本貨物鉄道(株)	日本通運(株)	日本トランスシティ(株)	
㈱ニヤクコーポレーション	林興業(株)	三菱化学(株)	四日市海運(株)			
四日市電機(株)	四日市郵便局					

港 防災だより

No.18(号外)
2014年(平成26年)12月20日
発行人/四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 会長 奥村吉孝

『港 防災だより』について

港地区には、防災を考えるうえで多種多様な問題が存在しております。
(例:埋立地(地震に弱い)、海岸線(津波に弱い)、臨海コンビナートに近接、住民の高齢化率40.7%)
これらの問題に対処して行く為に重要なことは、住民/企業/行政の相互理解とそれに基づく活動であります。そのためには、日頃、この三者が防災に対する情報を共有し、活動することが重要であり、その一助としてこの防災だよりを発行しております。

9月28日(日)

市民総ぐるみ防災訓練 港地区津波避難訓練を実施しました

◎行政・企業と連携した津波避難訓練

◎なやプラザにて住民参加防災訓練

(1) 応急手当・搬送訓練 (2) 初期消火訓練 (3) 炊き出し訓練 (4) 防災倉庫資器材取扱い訓練

◎防災関連機関訓練 放水訓練に市民防参加

平成26年度四日市市市民総ぐるみ総合防災訓練は、港地区を対象地区として実施され、四日市市と港地区の合同・連携訓練となりました。港地区としては、平成25年度港地区総合防災訓練に引き続き、津波避難訓練を中心に訓練を実施しました。四日市市の支援もあり、港地区単独では取り組みが難しい訓練も実施でき、訓練全体を総括すると、港地区ならではの港地区に必要な、大変有意義な訓練が実施できました。港地区は、住民・企業・防災ボランティア・行政の4面体での自主防災組織であり、訓練全体を俯瞰すると、この組織体の活発な活動が随所にあり、今後の港地区の防災・減災に繋がる心強さを感じた訓練となりました。

例えば、

1. 企業との連携においては、企業各社との包括的な協力協定、特定企業との災害時における協力協定(含.パイプライン安全管理)がありますが、今回の訓練においてその内容を地域、企業間で確認できました。
2. 防災NPOは、今回の訓練の企画・推進・実行(今後の改善検討)に対し、港地区との連携のもと大きな力を発揮しました。
3. 行政との連携においては、過去から現在に至る強い連携があり、お互いの力を活かせる(発揮できる)訓練を随所に織り込むことができました。
4. 港地区は、平成23年3月の東日本大震災の教訓を活かすべく、「イザ」の時、災害時要援護者の一人ひとりにまで支援の手を届けること、“防災そして男女共同参画”を目指した活動を平成25年度から推進し、今回の訓練を迎え、実行しました。
今回の訓練の改善検討(反省)を行い、次回訓練に織り込み、高齢化と過疎化の進む港地区ではありますが、「災害に強いまち」に向かった活動を今後も継続して実施していきたいと思っております。 地域の皆様のご協力をお願いします。



《今回の訓練で良かったこと》

- 町内で集団行動することが出来た。
- みんな良く纏まって避難出来た。
- 普段、町内の方と話をする機会が少なかったが、親しくなれた。
- ロープを使っての避難は、一緒にいる人を確認出来て良かった。
- リヤカーに乗っての避難で、避難所までの道のりや所要時間が分かって良かった。
- 企業の協力で船により、孤立状態から避難出来た。
- 避難経路を確認出来た。
- 避難道路が広くて安心。
- 近所に声をかけて出てきた。
- 非常持ち出し袋に入れておくものが分かった。
- 多くの方がヘルメット、長袖、非常持ち出し袋で参加しており、防災意識が高くなってきたように思う。
- 訓練のため、足の運動になった。
- 誘導と避難者名簿の記載、アンケート
- 自治会長の引率
- 手拭いの配付等の指揮は良かった。
- 何度も災害の経験があり、訓練が重要であると思う。

《今回の訓練で悪かったこと、改善すべきこと》

- いつものように変わり映えない内容。・ダラダラ歩いて疲れた。もう少しキビキビした対応が必要。集団避難のあり方は？
- 個人の意識に違いがあるが、もう少し緊張感をもって行動すると良いと思う。
- 年齢差がありすぎる。
- 命にかかわるのに避難所まで何故遠回りするのか。
- 避難経路に高いビルが少ない。
- 連絡不十分、時間ルーズ、もっと時間を守り避難経路をどのように進むのか、指示・説明が無い。
- 集合⇒点呼⇒移動の流れが甘いので、本当に災害にあった時、いない人が分からなくなるのでは。
- 町単位の連絡が良く分からない。
- 自分は自分で行動すべきだと思う。・家族全員が参加すると良い。
- エレベーターが停止の場合、弱者への対応を考えてください。
- 車椅子の避難者の介添え者が、エレベーターを使用して上がるのか判断できず、右往左往していた。
- 高齢者のフォローアップが大変。
- 高齢者が多いので集合するのが難しい。
- 高齢者・要援護者の避難場所での階段の上り下りは難しいと思った。
- 発災時のサイレンの音が小さい。
- サイレンが家の中では聞こえにくかった。
- 本当の災害の時が不安。サイレンが鳴っても避難場所が開いているのか。
- 避難場所が中央小学校、高齢者は勘違いする。
- 本日欠席の人にも声をかけたら良かったと思う。
- アパートの住民等、普段付き合のない人への教育をどうするのか。
- 参加していない人の想定。
- 児童、生徒、若い人の参加がもっとあれば良かったのではないかな。
- 待ち時間(本町プラザで何もせず長い間廊下に立っていた)が長かった。
- 本町プラザに着いてから、出入り口が一つしかないため、避難者名簿を書くのに混雑した。避難者名簿を書かなかった人も多かったのではないかな。
- 自治会ごとに分けることなく、避難者名簿に記載されたので集計に手間取りました。名簿に記載しなかった住民も大勢いた。
- 本町プラザの会議室が狭く、20~30人で一杯なのに80人以上の避難者を誘導していて、段取りが悪い。もう少しテキパキと指導してほしい。
- 人の流れが止まってしまうと、混乱を招きかねないと思った。
- 本町プラザでは、3階まで上がったが、何のために3階まで上がるのか説明が無かった。
- リーダーと自治会長の役割分担が良く分からない。自治会長はしっかり指揮していたが。
- 今回は、避難所に到着後、なやプラザまですぐに戻らなければならなかったのが仕方無いと思うが、避難先での町内住民の安否確認のことを考えれば、参加者が名簿に記載するだけでは不十分だと思う。
- 避難先での安否確認の方法が良く分からない。
- 先導する人は、旗やメガホンを使ったらどうか。
- 町(自治会)からの避難訓練と育成会としての避難訓練と、どちらを優先するのか。
- 自力で動くことの出来ない人の避難、救護等を想定した訓練も必要ではないかと思う。
- 役員同士の連携が悪い。・本部は、違う場所に誘導・指示するようなことの無いよう、指導を統一してほしい。
- アンケートを書き易いように、○×式を含めて設問を考えてください。